

兵庫県高校強化招待大会 滝川第2、東明工を破り連覇

第6回昭和63年度兵庫県高校強化大会は4月4、5、6日と磯上、神戸中央、神戸総合運動公園の各球技場で、全国各地の強豪12チームと県新人戦ベスト4、県トレンセンの東西2チームを加えた18チーム。それに特別参加の韓国東明工がオープン戦のあと準決勝から出場して開催された。

1次リーグAグループで西兵庫選抜が全国選手権優勝の国見と引き分け、得失点差で1位となったのを始め、Bグループで滝川第二、Eグループで東兵庫選抜、Fグループで八代学院がそれぞれ1位で決勝トーナメントに進出した。

決勝トーナメント第1戦で静岡工を1-0で降し準決勝に進んだ東兵庫選抜は東明工に歩もゆがらず1-1。4PK5とせり合って場内をわかせた。一方、打倒滝二の一番手八代学院を1-0と破り、準決勝で西兵庫選抜に1-0と辛勝して決勝で東明工と当たった滝川第二は試合巧者ぶりを発揮して、大方の予想をくつがえし、前後半1点ずつをあげて快勝、昨年に引き続いて第1位となった。

第6回兵庫県高校強化大会 成績

1次リーグ戦 4月4日

Aグループ	西兵	国見	八幡	順位	Bグループ	滝二	星陵	郡山	順位
西兵選	1-1	4-0	1		滝川第二	3-0	1-0	1	
国見	1-1	3-0	2		金沢星陵	0-3	4-0	2	
八幡	0-4	0-3	3		郡山	0-1	0-4	3	

市社会人リーグカップ 神戸FCシニアA 初優勝

昭和62年度神戸市社会人リーグ選手権大会は1月31日から3月27日まで神戸中央球技場を中心に41チームが参加して行われた。

決勝戦は3月27日、神戸中央球技場メインで4年ぶり2度目の優勝を狙うKR & ACと今大会安定した戦いぶりで勝ち上がってきた初優勝を狙う神戸FCシニアAの対戦となった。立ち上がりから一進一退の攻防の続く中KR & ACが先取点を上げたものの粘るKF Cも混戦から同点に追いつき前半を1-1で終了。後半も激しい攻め合いが続いたがどちらも得点を奪うことが出来ずPK合戦で神戸FCが4-3でKR & ACを破り初優勝をとげた。なお、3位決定戦では川重発動機本部が1対0で神鋼本社を破り、見事3位を確保した。今年度、神戸FCシニアAは市民大会2位、市リーグ2位、市総体優勝の神戸高専に1回戦でトス負と常に安定した戦いぶりを見せていたが念願の市レベルでの優勝であった。ベスト8には、1部リーグの上位チームが進出したが、御影工OB、ビートルズCの健闘が光った。

最後にシーズン最終の大会だが参加チーム増え、大会規模が大きくなることを期待したい。

▽神戸市リーグ選手権で優勝した神戸FC



充実のモルテン Tango

サッカー界の新しいスタンダード

MTSAD official size and weight molten Selected cow-hide Made in Japan

Official FIFA World Cup design

株式会社 モルテン

広島 / 東京 / 大阪 / 名古屋 / 福岡 / 札幌

神戸市民大会組合わせ

昭和63年度神戸市社会人市民大会は4月3日、神戸中央サブグラウンドと磯上球技場で開会された。4月の日曜と連休に準決勝までを戦い、3位決定戦と決勝戦は5月8日、神戸中央メインで12時、2時キックオフで行われる。組合せは下記の通りです。

昭和63年度 神戸市民大会 63. 3. 10 抽選

グループ	対戦相手	順位
K F C A	朝銀兵庫	0
兵庫県庁	神戸オフサイド	5
滝川クラブ	マックエルブ	0
K F C D	F C B	0
育英クラブ	K F C B	7
ブルーサンダー	富士通テン	3
アパッチB	かつおぶし	0
MJアンファン	須磨クラブ	0
太陽神戸	アパッチA	1
六甲ヒルケル	双和クラブ	8
ガラクターズ	兵庫朝鮮	0
市役所A	北須磨	0
鶴甲一丁目	FCオルフェス	0
ビートルズB	富士電機	0
県職神戸	関西電力	0
灘FC A	神戸税関	5
神高クラブ	赤塚山FC	4
ナブコ	鍾化中央	0
住友ゴム	三菱電機	0
神鋼本社	須磨クラブ	3
スポーツマン	川鉄建材	0
K F C C	スワローFC	0
アシックス	甲山FC	0
ストイパーズ	長田クラブ	2
八代学院	アーセナル	3
神大同好会	ビートルズA	0

昭和63年度神戸市社会人リーグ ブロック分け

関西リーグ	1部A	1部B	2部A
兵庫教員	兵庫朝鮮	市役所A	神高クラブ
	K F C A	K F C B	K R & AC
	ビートルズA	双和運輸	長田クラブ
	須磨クラブ	神大同好会	豊島神戸
	アーセナル	神鋼本社	K K S F C
	K F C 1970	川重発本	I B F C

県リーグ	2部B	3部A	3部B	3部C
三神神戸	六甲ヒルケル	市役所B	兵庫教員C	滝川クラブ
K F C 1970	甲山FC A	御影工J R	板宿FC	FCオリフェス
	灘FC A	鶴甲一丁目	三神神戸	川重神戸
	赤塚山クラブ	ナブコ	K F C D	豊島神戸
	関電神戸	御影工OB	シエン	K K S F C
	白鷺	神戸台クラブ	アパッチFCA	I B F C
	関電神戸	兵庫県庁	ストライパーズ	ラ・リベルテ
	FCなかよし	兵庫県庁	星堂	八代学院
	オフサイド	灘生協	須磨G F	ロジ
	舞子クラブ	住友ゴム	FC東灘	かつおぶし
	神高クラブ	三菱電機	FCキッズ	武陽クラブ
	三神神戸	アシックス		富士通テン
	川鉄建材	川鉄建材		長田クラブ
	エアブレキ	エアブレキ		長田クラブ
	県庁	県庁		長田クラブ
	川重発本	川重発本		長田クラブ
	御影工OB	御影工OB		長田クラブ
	富士通テン	富士通テン		長田クラブ
	赤塚山FC	赤塚山FC		長田クラブ
	K F C D	K F C D		長田クラブ
	甲山FC	甲山FC		長田クラブ

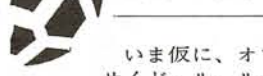
天に天国あり 地にフットボールあり <10>

チカテツ漫才ではないが、オフサイド・ルールを考へるほどに夜は長くなる。イタリア・ワインの酔いの力を借りなければ、深い眠りにつけそうもない。

大きな口を開けて待っている、動こうともしない白いゴールを奪い合うことを目的としながら、ボールより前方でプレーすることがなぜ「違反」なのか。人前ではそれなりの理由を並べることができるが、もう一人の自分に対して、今なお説得しきれないでいる。嗚呼(ああ)、オフサイド。

責任をだれかに預けて「オフサイド撤廃論」を打ち上げれば、一般的には、待ち伏せをねらう攻撃側の選手に密集してしまい、中盤の展開が省かれる結果フットボールのおもしろみが失われるだろう、という意見が返ってくる。

上野 勝幸



いま仮に、オフサイド・ルールが適用されない条件のもとで、A B 2チームが戦っているとして、Aチームの攻撃の選手がBチームのゴール近くで待ち伏せしようとした場合、Bの守備者がそれを見逃すはずはない。当然マークに帰る。反対に、Aのゴール前でもBの攻撃の

手か味方のゴール前で繰り広げられる危険な状態を遠くからながめて、Aのゴール前で同時に起こることは、両チームがただ1個のボールを争っている限り考えにくい。フットボールの攻撃と守備は表裏一体をなすものだから。

相手ゴール近くで待つ、

手か味方のゴール前で繰り

広げられる危険な状態を遠くからながめて、Aのゴール前で同時に起こることは、両チームがただ1個のボールを争っている限り考えにくい。フットボールの攻撃と守備は表裏一体をなすものだから。

手か味方のゴール前で繰り

広げられる危険な状態を遠くからながめて、Aのゴール前で同時に起こることは、両チームがただ1個のボールを争っている限り考えにくい。フットボールの攻撃と守備は表裏一体をなすものだから。

手か味方のゴール前で繰り

広げられる危険な状態を遠くからながめて、Aのゴール前で同時に起こることは、両チームがただ1個のボールを争っている限り考えにくい。フットボールの攻撃と守備は表裏一体をなすものだから。

手か味方のゴール前で繰り

広げられる危険な状態を遠くからながめて、Aのゴール前で同時に起こることは、両チームがただ1個のボールを争っている限り考えにくい。フットボールの攻撃と守備は表裏一体をなすものだから。

手か味方のゴール前で繰り

広げられる危険な状態を遠くからながめて、Aのゴール前で同時に起こることは、両チームがただ1個のボールを争っている限り考えにくい。フットボールの攻撃と守備は表裏一体をなすものだから。

手か味方のゴール前で繰り

広げられる危険な状態を遠くからながめて、Aのゴール前で同時に起こることは、両チームがただ1個のボールを争っている限り考えにくい。フットボールの攻撃と守備は表裏一体をなすものだから。

手か味方のゴール前で繰り

広げられる危険な状態を遠くからながめて、Aのゴール前で同時に起こることは、両チームがただ1個のボールを争っている限り考えにくい。フットボールの攻撃と守備は表裏一体をなすものだから。

手か味方のゴール前で繰り

広げられる危険な状態を遠くからながめて、Aのゴール前で同時に起こることは、両チームがただ1個のボールを争っている限り考えにくい。フットボールの攻撃と守備は表裏一体をなすものだから。

手か味方のゴール前で繰り

広げられる危険な状態を遠くからながめて、Aのゴール前で同時に起こることは、両チームがただ1個のボールを争っている限り考えにくい。フットボールの攻撃と守備は表裏一体をなすものだから。

手か味方のゴール前で繰り

広げられる危険な状態を遠くからながめて、Aのゴール前で同時に起こることは、両チームがただ1個のボールを争っている限り考えにくい。フットボールの攻撃と守備は表裏一体をなすものだから。

手か味方のゴール前で繰り

広げられる危険な状態を遠くからながめて、Aのゴール前で同時に起こることは、両チームがただ1個のボールを争っている限り考えにくい。フットボールの攻撃と守備は表裏一体をなすものだから。

手か味方のゴール前で繰り

広げられる危険な状態を遠くからながめて、Aのゴール前で同時に起こることは、両チームがただ1個のボールを争っている限り考えにくい。フットボールの攻撃と守備は表裏一体をなすものだから。

手か味方のゴール前で繰り

広げられる危険な状態を遠くからながめて、Aのゴール前で同時に起こることは、両チームがただ1個のボールを争っている限り考えにくい。フットボールの攻撃と守備は表裏一体をなすものだから。

上野 勝幸



いま仮に、オフサイド・ルールが適用されない条件のもとで、A B 2チームが戦っているとして、Aチームの攻撃の選手がBチームのゴール近くで待ち伏せしようとした場合、Bの守備者がそれを見逃すはずはない。当然マークに帰る。反対に、Aのゴール前でもBの攻撃の

手か味方のゴール前で繰り

広げられる危険な状態を遠くからながめて、Aのゴール前で同時に起こることは、両チームがただ1個のボールを争っている限り考えにくい。フットボールの攻撃と守備は表裏一体をなすものだから。

手か味方のゴール前で繰り

広げられる危険な状態を遠くからながめて、Aのゴール前で同時に起こることは、両チームがただ1個のボールを争っている限り考えにくい。フットボールの攻撃と守備は表裏一体をなすものだから。

手か味方のゴール前で繰り

広げられる危険な状態を遠くからながめて、Aのゴール前で同時に起こることは、両チームがただ1個のボールを争っている限り考えにくい。フットボールの攻撃と守備は表裏一体をなすものだから。

手か味方のゴール前で繰り

広げられる危険な状態を遠くからながめて、Aのゴール前で同時に起こることは、両チームがただ1個のボールを争っている限り考えにくい。フットボールの攻撃と守備は表裏一体をなすものだから。

手か味方のゴール前で繰り

広げられる危険な状態を遠くからながめて、Aのゴール前で同時に起こることは、両チームがただ1個のボールを争っている限り考えにくい。フットボールの攻撃と守備は表裏一体をなすものだから。

手か味方のゴール前で繰り

広げられる危険な状態を遠くからながめて、Aのゴール前で同時に起こることは、両チームがただ1個のボールを争っている限り考えにくい。フットボールの攻撃と守備は表裏一体をなすものだから。

手か味方のゴール前で繰り

広げられる危険な状態を遠くからながめて、Aのゴール前で同時に起こることは、両チームがただ1個のボールを争っている限り考えにくい。フットボールの攻撃と守備は表裏一体をなすものだから。

手か味方のゴール前で繰り

広げられる危険な状態を遠くからながめて、Aのゴール前で同時に起こることは、両チームがただ1個のボールを争っている限り考えにくい。フットボールの攻撃と守備は表裏一体をなすものだから。

手か味方のゴール前で繰り

広げられる危険な状態を遠くからながめて、Aのゴール前で同時に起こることは、両チームがただ1個のボールを争っている限り考えにくい。フットボールの攻撃と守備は表裏一体をなすものだから。

手か味方のゴール前で繰り

広げられる危険な状態を遠くからながめて、Aのゴール前で同時に起こることは、両チームがただ1個のボールを争っている限り考えにくい。フットボールの攻撃と守備は表裏一体をなすものだから。

手か味方のゴール前で繰り

広げられる危険な状態を遠くからながめて、Aのゴール前で同時に起こることは、両チームがただ1個のボールを争っている限り考えにくい。フットボールの攻撃と守備は表裏一体をなすものだから。

手か味方のゴール前で繰り

広げられる危険な状態を遠くからながめて、Aのゴール前で同時に起こることは、両チームがただ1個のボールを争っている限り考えにくい。フットボールの攻撃と守備は表裏一体をなすものだから。

手か味方のゴール前で繰り

広げられる危険な状態を遠くからながめて、Aのゴール前で同時に起こることは、両チームがただ1個のボールを争っている限り考えにくい。フットボールの攻撃と守備は表裏一体をなすものだから。

手か味方のゴール前で繰り

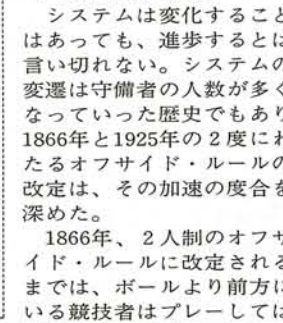
広げられる危険な状態を遠くからながめて、Aのゴール前で同時に起こることは、両チームがただ1個のボールを争っている限り考えにくい。フットボールの攻撃と守備は表裏一体をなすものだから。



いた10人の選手を後ろから1-4-2-3の順に配置する、スイーパー (Sweeper) ・システムがそれである。

この150年の間に、戦法はマス・ドリブル、キック・アンド・ラッシュ、コンビネーション・パスと変化し、これはさらにいくつかのシステムに分類できる。「2人制」オフサイド以前は、守備側はオフサイド・ライン(オフサイドの状態のうち最も味方に近い位置を通る、ゴールラインに平行な仮想の線)の後ろのバックアップが重要であり、また「1人制」に改定されてから今日までは、オフサイド・ラインに守備者の数的優位をつくるのがポイントとなってきた。

スイーパー・システムでは、4人のバックスが相手の選手を密着マークする条件の上で、最後尾のスイーパーがバックスのミスをカバーするとはいえ、本質的にはスイーパーの位置にオフサイド・ラインがあることを覚悟しなければならぬ。相手の選手がバックスとスイーパーの間にポジションをとると、それに対応して下がらなければならず、その結果オフサイド・ラインも味方のゴールラインの方へ追いやられてしまう。システムの変遷の中で、興味ある一つのシステムに注目してみたい。GKを除く



1-4-2-3システム (スイーパーシステム)

いけないという厳しいものであったから、ドリブルする者のまわりをサポートしながら進むマス・ドリブル戦法がとられていた⁽¹⁾とするのが有力である。しかし、ボールの要因も無視できないと思う。ゴム製の中袋を皮で覆ったボールが使われるようになったのは、ダンロップが空気入りのゴムタイヤを発明した1888年以降のことであろう⁽²⁾。それまでは動物のぼうこうを用いたと考えられ⁽³⁾、あまり弾まないボールでは、ドリブル中心のプレーに頼らざるを得なかったはずだ。

また、オフサイド・ルールが定着していた1960年代に、紙の上にかかれた選手の配置状況だけにこだわれば不利だと思えるスイーパー・システムが出現した事実は、何か特別な意味を投げかけていると受け止めることもできる。

「主流」に対抗して新しい考え方が頭を持ちあげてくるのは、世の中の常である。フットボールにおいても、選手の技術や運動能力の向上と相まって、機械文明の多くの成果たとえば交通機関の発達、異質のチームが切磋琢磨(せっさたくま)する機会をより多く与え、システムの変化と多様化を助長する。

現代では、もはやオフサイド・ルールに支配されるだけではなく、種々の要因がフットボールの形成に寄与していると言っているといふうだ。

―続く―

(参考図書)

(1) 多和健雄著、「サッカー」、成美堂出版、1967年

(2) 中村敏雄著、「オフサイドはなぜ反則か」、三省堂、1985年

(3) 岡野俊一郎著、「サッカー」、旺文社、1971年

(うえのかつゆき 写真も)

モンブラン発。愛するサッカー人へ。



マーカムSFホワイト
●カラー/ブラック×ホワイト・ブルー・レッド・グレイ ●サイズ/20.0-27.0cm
標準小売価格 ¥5,000

コーチャーCTR-21
●カラー/ブラック×ホワイト ●サイズ/21.0-28.0cm
標準小売価格 ¥5,600

コーチャーCTR-21-PS
●カラー/ブラック×ホワイト ●サイズ/22.0-28.0cm
標準小売価格 ¥5,200

モンブラン株式会社 本社 〒653 神戸市長田区神楽町4丁目16 TEL(078)641-8881 東京支店 〒111 東京都台東区浅草橋3丁目10-8 TEL(03)862-5891 福岡営業所 〒816 福岡市博多区那珂1丁目12 TEL(092)473-8881